

文化企画実践VI

公務員班

活動報告

荒井 由葵子 小野沢 友雅 長門 真由
林 美穂 横山 侑佳

1.はじめに

須坂市の公民館の新しい使い方を考えるうえで、
現在はどのように使われているのかを調べる必要がある



実際に今回の連携先である中央公民館に、
使われ方や課題を調査しに行った



2.しかし…

中央公民館では、館長の三溝さんが
「**中公亭**」という非営利の施設を隣に設けて活動



三溝さんや地域の人交流活动をしている場

※現在、公民館らしい活動はあまり行われていない



一般的な公民館とは活動方式が違う



“イレギュラーな存在？”

しかし需要がある → **地域の声**とも関係してくる？



三溝さん「**人と人をつなぐ(交流する)場**を」
公民館の新たな活用方法のヒントとして捉えた



3. 須坂市の公民館の体制

公民館（10館）：須坂市公民館条例に基づき設置され、

市の予算により運営され常勤の職員がおかれている

公民分館（69館）：地域住民からの拠出金と市公民館の交付金で、

地域住民により運営されている



地域のことは地域で、それぞれの特色ごとに合わせて運営

※毎週公民館長同士でzoom等を通し情報交換を行っている

「学びの主体は市民であることを基本に、
市民の自主的な学習権を守り、発展させる立場に立ち、
学びを基礎とした”人づくり、つながりづくり、地域づくり”」
を目指している



イベントや講座、講演会などを定期的 to 実施・開催
例) 着物試着体験、ヨガ講座、パソコン教室など

4.調査から

生涯学習推進課に取材へ行った際「どのような要望がきているか」

「答えられた要望、答えられなかった要望はどのようなものか」

という質問をし、「要望は届いていない」と言われた



しかし、後日届いた資料から
いくつか要望があることが分かった



5.市民からの声・要望

- ケーブルテレビなどで地域の事が取り上げられるように事業の広報に力をいれてほしい
- 利用施設の環境整備→老朽化に伴う改善、
- わかりやすい施設表示、エレベータの設置、
- 自動販売機の設置、屋外施設(テニスコート)に木陰がほしい
- 気軽に立ち寄れ、子どもが遊べる場所が欲しい
- 作品づくりのできるアトリ工的なラボ、スタジオ、ホール、ギャラリーがあるといい
- 待ち合わせ・時間待ちでちょっと座れる場所が欲しい
- 安く飲んだり、食べたりしたい
- 飲食の緩和(コロナ禍で制限があった
- 地域公民館でやってほしい各種事業の要望
(趣味・学習講座・スポーツ・イベント・映画会)
- 地域の拠点(情報共有・地域防災)にしたい
- 区(自治会)での研修やスポーツ活動の相談
- 地域の伝統・文化活動についての相談
- 地域の中学校の校歌や地域の歴史的な図書などについて知りたいので、地域の方で教えていただける方を紹介してほしい
- 蓮の花の文言が学校の校歌にあるが、地域のどこにあるのか教えてほしい
- 行政手続きのことを教えてほしい

6.調査からグループで考えたこと

中には生涯学習推進課の目的に当てはまっている声や要望があった



職員同士が地域からの声を把握・共有できず、改善できない？



資料の中で比較的実現がしやすい要望について、
人と人とのつながり・地域づくりに繋がるような
具体的な活用方法を学生目線で考えよう！



生涯学習推進課に寄せられた要望のうち活用できそうなものを選択



- ・ 地域公民館でやってほしい各種事業の要望
- ・ 気軽に立ち寄れる子供の遊び場
- ・ 作品作りのできるアトリエ・ラボ的な場所がほしい



解決するための具体的な活動を提案していく

7.公民館の新しい使い方①

【やってほしい各種事業】

例) ボッチャ

- ・ 公民館の広さでも楽しめる屋内スポーツ
- ・ 年齢や障害の有無に関係なく参加者同士が
かかわりながらできる
→地域のつながりの場になる

公民館の新しい使い方②



【子供連れが利用できる育児コミュニティの場がほしい】

- ・ 現在、須坂市の公民館には子供が気軽に立ち寄れる場所がない
 - 遊ぶ場所はもちろん、育児コミュニティの場が少ないのではないか
 - 子供が遊ぶ場所の確保も必要だが、子供を通して親の交流を広める場所も地域活性には必要



週に何回か公民館を提供し、

子供は子供同士で遊べて、親は親同士の交流ができる機会をつくる

公民館の新しい使い方③

【作品作りのできるアトリエ、ラボ的な場所がほしい】

- ・ ただの趣味の場所を提供するということであれば、生涯学習センターを使用しても問題ない
- ・ 親子連れや子供を対象としたアート系ワークショップや年配の方と子供たちが触れ合えるようなワークショップを開催
→①、②同様、地域住民の交流の場にしてほしい



こどもアトリエや伝統的な遊び道具などを作成するワークショップ



上田市立美術館



8.まとめ

公民館は

- ・ 地域住民が気軽に相談や足を運べ、身近で安心できる存在であるべき
- ・ 地域の方のニーズなどにいち早く気づき、問題点を改善するべき
- ・ 時代に合った方法で柔軟に対応するべき



住みやすい、暮らしやすいまちづくりにおける
公民館としての役目を果たせる



9. そうするためにも

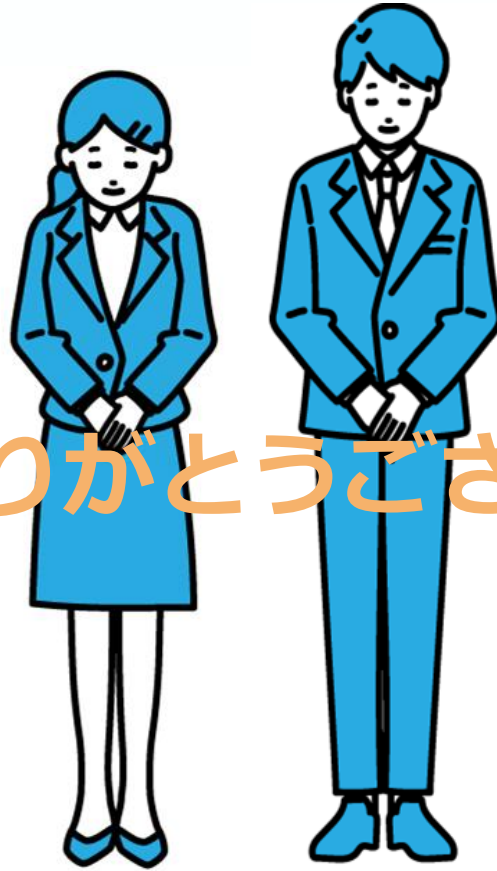
公民館だけの対応ではなく、
生涯学習推進課との協力も必要不可欠



施設の業務分担も大事だが、
意見発信の窓口を両方の施設に設けるなど共有の体制を整え
「自分ごと」として地域の声と向き合う必要がある



ご清聴ありがとうございました





小学生向けイベントの企画

清泉女学院大学人間学部文化学科
企画・広報班

紹介

山田千晴

- ・清泉ハンドベルクワイアに所属
- ・中学校から合唱をやってきた





企画したこと

小学生向けハンドベル体験会

- ・須坂市中央公民館主催の
「夏休み子どもワクワクSDGsDAY」の中の1時間
- ・対象：須坂市東部児童センターの小学生約50人
- ・場所：中央公民館3階ホール

できなかった



過程で得たことを伝えたい！



きっかけ

- ・清泉ハンドベルクワイアに所属
- ・合唱を中学校からやってきた

→子供たちにとって音楽がより身近な存在に

目的

- ・音楽を通して小学生に豊かな感性を養ってほしい
- ・みんなで1曲作り上げることを体験して、協調性・自己肯定感を身につけてほしい

目的

自己肯定感

1音(1人)でも 欠けたら曲が成立しない

=1人1人が特別な存在

自分はかけがえないのな一人

必要とされていること



準備の流れ

5/26(木) 中間報告

7/9(土) 最終報告会

8/2(火) 当日



当日の流れ

- ①挨拶、説明
- ②ハンドベル演奏(大学生が演奏)
- ③ハンドベル体験
- ④選抜メンバーで発表



流れ

ハンドベル体験

①中級グループ(18人)

「きらきら星」を演奏

②初級グループ(約30人)

ハンドベルに順番に触れる



ポイント

①困ったらすぐに相談する

②まわりの声を聞きながらも譲れないことをもつ

協力者

中央公民館

館長 三溝さん

高野さん

川北先生

田村先生

山崎先生

文化学科3年のみんな



助けてほしいこと

- ・たくさん会って話すことになっても許してほしい



- ・何が必要か分からないから助けてほしい

まとめ

これから企画をする人・何かに挑戦する人へ

分からないことは悪いことじゃない
助けてくれる人はたくさんいる





ご清聴ありがとうございました！

出典：いらすとや [HTTPS://WWW.IRASUTOYA.COM/](https://www.irasutoya.com/)

ハンドベルのベルミント [HTTPS://BELLMINT.COM/HANDBELLTYPE](https://bellmint.com/handbelltype)

編集ライター班

文化学科3年

須坂市と小布施町を比較して フリーペーパーを作る！



4月24日 須坂市フィールドワーク

- ・ スザカのサスガをさがすバス
- ・ 旧小田切家住宅
- ・ 傘鉾会館 ドリームホール
- ・ まゆぐら



小布施との比較から見えてきたこと

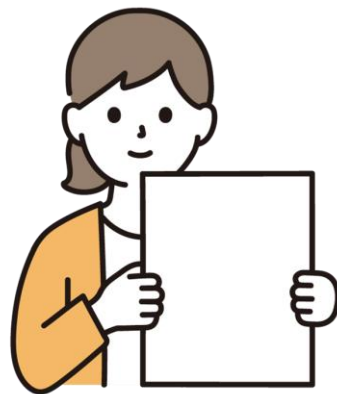
- ・ 観光地が転々としている
- ・ ルートが分かりにくい
- ・ 徒歩だと駅前くらいしかない、限られている
- ・ 博物館、農園が小布施よりある
- ・ レトロ感

テーマにできそうなこと

- 隠れカフェ
- 博物館巡り
- 食べ物（栗に負けない！）→果物農園
- 街並み→シンプルさを活かしたPR、レトロ感
- 須坂駅から離れたエリア（子供向け）
→臥竜公園、動物園、河川敷

コンセプト：わたしの 一日

- フリーペーパーに1日の過ごし方のモデルを3パターン載せる
- 対象：親子、若者、シニア



実現に向けて

- 親子向け・若者向け・シニア向けと対象者を限定しない
- 店名だけではなくどのような施設なのか説明を加える
- 地図の修正

ポイント

- 表紙
- フリーペーパーの形
- オシャレさ、色合い
- 1日の過ごし方にフォーカス
→ シンプルな中身



ルート選びのポイント

- バスで移動できる範囲
- 1年を通して利用できるフリーペーパー
- カフェは様々な系統の違うお店

実際の様子



まとめ



- 観光客向けのフリーペーパー
- 須坂市は観光地が転々としている
- どの年代にも楽しんでもらいたい→きっかけ作り
- それぞれの年代に合ったモデルコース
- 手に取りやすいデザイン

ご清聴
ありがとうございました

